

連載 福聚山史

篠原 重一 編
及川 一晋 文

常円寺の起立

5、常円寺の移転

『御府内備考』には、この連載の最初に紹介した『御府内寺社備考』(続編)と、御府内の各市街の状況や名所旧跡等の沿革由来を詳記した『御府内備考』(正編)とがあり、その中に成子町の起源について、次のように記されているのでご覧いただきたい。

當町往昔者武州豊島郡野方領柏木之内二御座候町名起り之儀者天正年中當町日蓮宗常圓寺と申寺起立之本人源左衛門と申者先祖年曆不知往古當町之末南側往還より少々引込民家補理往還際え萱葎ヲ張にこり酒其外ヲ出し置其側え鳴子二繩ヲ附置酒其外調度ものは右繩ヲ曳候得者住家より人出来り商致候事年久鋪故自然と往來人鳴子と申候より所之名之様申觸し夫より惣名二相成候由申傳二御座候尤右故歎以前者文字ヲ鳴子と相認候得共何之頃より改候哉當寺者成子と認申候(省略)

常円寺は、天正十三乙酉(一五八五)年九月十三日に中道院日立聖人が開闢したお寺であるといふ。もちろんその場所は、現在の西新宿である。旧地名を豊島郡淀橋町大字柏木百十一番地成子町北といひ、江戸時代より通称『成子の常圓寺』と呼ばれていた。

右記は、その地名『成子』の由来についての内容であるが、そこには常円寺の起立当時の様子が具体的に語られている。それによると

成子の地に常円寺を誘致し創建当時、開祖日立聖人を支援した最大の篤志家の名が源左衛門であったといふ、またほかに創建当時の常円寺の立地条件等の大変興味深い記述がされていた。それは上記の文章によると、往時の常円寺(源左衛門の住居)は南側に道路、南側往還を控えていることになっている。その道路が青梅街道(成木街道ともいふ)なのである。『豊多摩郡誌』によると、青梅街道は、

縣道 内藤新宿町大字内藤新宿三丁目追分に於て甲州街道より分岐し、淀橋町に入り、山手線鉄道線路の鉄橋下を西して淀橋を渡り、中野町杉並村井萩村を經、北豊島郡石神井村、保谷村田無町岩井村、西多摩郡殿ヶ谷村箱根ヶ崎村等を通過して同郡青梅町に至り、更に山梨県に達す、平均幅員五間二分餘。(省略)

さらに『幡ヶ谷郷土誌』によると、成木街道は田無からその一部を青梅街道と同じ道とし、それより小川に至り、およそ十里余り経て箱根ヶ崎へ出て、四里ほどにして成木に至るとある。この街道の一部は甲州裏街道といわれ、甲州街道以前の古道という説がある。

ではなぜ常円寺が天正十三年に成子に移ったのか? 「このこと」について、私説ではあるが考証を試みた。まず第一に、道路状況を含むお寺の立地条件の違いが考えられる。幡ヶ谷は甲州街道沿いとはいふものの、江戸以前に同様の道が存在したのか不明である。村人達の往還する、駒場道の存在はあったとしても人の往來の少ない村道であろう。この地は、地

蔵窟「牛窟」といった地名のごとく、浅い谷間で、明治十三年測量の実測図(それ以前の測量図はない)によると、起伏の激しい地帯であった。そして幡ヶ谷村の中心は甲州街道の北側にあり、「地蔵窟」のある南側には、極めてわずかな家が散在しているだけであった。かたや、青梅街道沿



明治末農農村幡ヶ谷地図

に多く用いられた、当時の重要建築資材である青梅産「石灰」の運搬路の町場として栄えたのだといふ。小江戸と呼ばれた如く、賑やかな町並みであった。明治十三年の実測図をみても、成子より中野村にかけて、青梅街道沿いの

街は左右に帯状に並んでいた。地形については、西に神田川(成子坂下)や東に雷窪(新宿大ガード付近)より上がった、程よい台地にあつたといえる。今から数えて四百七十年前の天正十三年、常円寺起立の日立聖人、誘致勸進元の源左衛門、また幡ヶ谷の檀家の人々等の熱い信仰心と協力をとまない幡ヶ谷の地より、成子の現在地に移った常円寺。俗人のいう先見の明かはたまたま仏さまのご加護であらうか。時代が移って今日の常円寺の盛運を見るに、大きな感動を禁じえないものがある。

最後に、常円寺移転の幡ヶ谷より成子に至る道筋はいかにあつたか、このことも大変興味深い事である。参考までに、江戸開府以前のこの辺の主要道路と思われる「国分寺街道」と言われる道筋を『幡ヶ谷郷土誌』より抜粋するのでご覧いただきたい

この道路が大久保、柏木方面から幡ヶ谷へ通じていた事は明らかであり、幡ヶ谷地内での経路を見ると柏木成子坂下から淀橋を角筈十二社方面に向かひ、十二社境の淀橋を南西に向かつて幡ヶ谷方面へと進み、此所で道路は真南へと転じて赤玉本多の坂へと掛かり、それより今の十二社と幡ヶ谷との境界線本町三丁目三番地へと出て、二番地先で右折してこの道路と分れて今の環状六号線を横断し、同町二丁目との境界道路を四丁目へと進んで同町二十九番地(本町小学校角)で再度右折し四丁目五丁目間の道路を四丁目四十五番地まで進んで其所から氷川神社の前を過ぎ、五丁目十九番地先で中野区との境界道路へ出ていたのである。(省略)

全行程の所要時間は四十分程であろう。氷川神社から国分寺街道のある「地蔵窟」、つまり天正十三年以前に現存したと伝えられている常円寺跡までは比較的近くである。(つづく)